

2025 年さわやか交流会

秋晴れの天候に恵まれた去る 2025 年 11 月 14 日、大阪セルロイド会館に於いてセルロイド産業文化研究会主催の 2025 年度さわやか交流会が開催されました。

まずは例年の恒例となっております物故者への黙祷から始まり大井大阪地区代表がセルロイドとはどのようなものか、セルロイドにどのように向き合ってきたか、今後の対応をどのようにするべきかなどを説明した後に約 30 名からなる出席者が自己紹介を行った後に講演が行われました。

トップバッターとなりました松尾理事は「我が国セルロイド産業発展の戦略」と題してセルロイド産業において何故日本が世界一となったのかを日清・日露戦争、第一次大戦などの歴史的背景、国の重化学工業発展への政策、優れた人材の存在等が絡まりあうことによって発展していき、日本を代表し世界一の産業となっていき、最終的には各種プラスチックの登場等によって衰退していき遂には国内における生地生産が停止するまでを論じました。

二番手となりました一般財団法人化学研究評価機構(JCII)高分子試験・評価センターの佐藤大阪事業所長は「JCII 高分子試験評価センターによる企業の新商品開発への支援」と題しまして、同機構の沿革、事業等の説明を行った後に耐久性、耐候性などの試験や化学物質、消費財等への法規制などの問題を取り上げ、そのような諸問題を如何にクリアしていくか、原材料の選定はどのように行うか、射出成型から物性試験に至るまでの協力を行って各社の新製品開発を支援している姿を論じました。

最後に登壇したイノベーション・パークの坂本英明氏は「新商品開発におけるプラスチック選定と最新のプラスチック用途展開」と題して、プラスチックとはどのようなものか、どのような場所に、どのようなプラスチックが使われているか、何故プラスチックが使われるのか等を説明し、

- ・プラスチックには熱可塑性のものと熱硬化性のものがあること
- ・さらに非晶性・結晶性プラスチックがあること
- ・金属との比較
- ・汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチック
- ・プラスチックの種類と生産量
- ・プラスチックを特徴づけるもの

等について論じた後に最新のプラスチックの用途展開と今後の動向について述べました。

引き続き行われました懇親会は和やかな雰囲気が進み来年の再会を約して散会となりました。今回の参加者の方はもちろんのこと、ご参加いただけなかった方達も来 2026 年には是非ともご出席いただきたいものです。